せいたか先生の独り言

平成 31 年度明星大学教育学部教育学科教科専門コース理科コース卒業の石村悠策です。佐藤先生には「初等英語指導法研究」と「初等英語科教育法」の授業でお世話になりました。外国語の学習についての実践をということで佐藤先生からお話を頂きましたので、皆さんの参考になるかはわかりませんが、書かせていただきたいと思います。その前に私の自己紹介を少し。私は大学卒業後、川崎市の教員として働いています。身長が高いので担任を持っていない子どもたちからは「せいたか先生」と呼ばれたりしています。担任の経験としては 1,3, 5, 6年の担任をもってきました。趣味としては、ロードバイク、習字、箏、三味線など色々な趣味を持っています。まぁ少し脱線しましたので本題に戻ります。

外国語の学習は専科の先生が教えているという学校も増えてきたのではないかと思います。私の学校でも外国語は専科の先生が行ってくれています。私は英語は堪能ではありませんし海外に行くなんて正直無理です。そんな私ですが ALT の先生と話さないかと思いきやそこは話します。基本話しかけると返してくれます。間違えて変な聞き方をしても「こういうこと?」と英語で聞き返してくれます。あとはノリです。私は子どもたちを外国語の学習がある際、外国語の教室まで子どもたちを連れていきます。そして教室に着くなり ALT の先生に「Hello!」「〇〇!How are you!」などと話しかけます。文法的に合っていないかもしれませんが子どもたちが全員座るまで他愛もないことを話します。そして外国語の教室をあとにします。たったこれだけでも実は子どもたちの外国語に対する意欲は高まっていると聞きました。先生があんなにALTの先生を笑わせるんだから俺も!みたいな子どももクラスにいるようです。少しずつでもできることからやっていくことが大切だと思います。

そんな外国語を教えることのない学級担任である私が外国語や外国語活動の授業以外で取組んだことのある2つのことを紹介したいと思います。

1つ目はあいさつを外国語でというものです。これは高学年向けの方法かとは思いますが、前日に次の日の朝の挨拶の国を伝えます。そうすると子どもたちは自宅で GIGA 端末などを用いてその国の挨拶を調べてきます。そして、次の日の朝、朝の会の挨拶で「おはようございます。」の後に「せ～の」で外国の挨拶をみんなで言います。ここで、面白いのは公用語が二つある国や発音などです。ここで違うと「え～」という声などがクラスから聞こえてきます。まぁそこで子どもたちを座らせます。本当は「え～」に対する追及をしたいところですがしません。ここで面白いのは次の日に一部の子どもたちの自主学習ノートにはその国のことや公用語などの言葉が並ぶのです。これは子どもたちが主体的に学ぶという点において非常によいと思います。これは私の考え方ですが、やらされる勉強ほど意味のない勉強はないと思っているからです。

2つ目は、10 は何と何のセットかを考える学習で使えます。1 年生では、算数で1と9で 10、2と8 で 10 といった 2 つの数字を足して、10 になるという学習を行います。それを少しだけ応用してみれば、外国語の学習に早変わりです。ちなみに私は、これを音楽に合わせて盆踊りみたいな感じで行っていたので、音楽や体育との関連にもなると思います。こうなると 1 年生は楽しくなって、次の日「先生!踊ろうよ」と言ってきます。そうなればしめたものです。1と9 で 10 の1と9 を「one」「nine」という風に外国語に変えることですぐに外国語に早変わりです。このように案外、普通にやっていることを外国語の学習に置き換えることでうまくいくなんてこともあります。

最後に私が教員になって最初の研修の際に言われた言葉を皆さんに紹介したいと思います。「あなたたちは教員という職業に就いたのではなく教員という生き方を選んだんですよ。」という言

葉です。確かにその通りではないでしょうか。教員になってから「あれ？これ〇〇の授業に使えるんじゃないかな？」「この畑ホウセンカ育ててるな。理科の実験で使うな…」などなど見方が変わりました。普通であれば「きれいだな」「面白いな」と思うことでも授業に使えそうだなという視点が頭の片隅にいます。ここで皆さんに意識して欲しいのは視点です。私自身教員 1～3 年目の途中まではそんな視点で物を見てきました。しかし、3年目5年生の担任をしていた際、劇をしようという話になり桃太郎の劇を鬼視点で行いました。そうすると鬼は被害者、桃太郎は加害者（悪者）になるわけです。そこで私は教員になって大切なのはいろいろな立場の視点を持つことだと思いました。そのため、私は今から教員になる皆さんや教員を目指している方に伝えたい。教員としての視点がいらないわけではありませんが、他の視点で物事を見ることは将来予測不能な時代を生きる子どもたちのためにも大切なことだと思うのです。そしてその視点の持ち方を子どもたちに教えていくことが大切なのではないでしょうか。

　教員という生き方を是非一緒にしてみませんか？待ってます！